

台風15号被害から半年 おいしい茶を作り続ける 復興への思い強く

静岡市内

藤田さんは「農業は自分で計画し実行したことに結果が出て、それを次につなげられる面白さがある」と話す



約800年の歴史を持つ本山（静岡市葵区新間、茶約5畝、茶産地にある山翠園藤田製茶 シネンシヨ約1畝など）を訪ね

山翠園藤田製茶 藤田 匠さん

産地の担い手として

た。代表の藤田匠さん(37)は「茶価の低迷や高齢化で引退する農家が増える中、本山茶の味を守る担い手として地域の農地を受け継ぎ、経営を発展させていきたい」と意欲を見せる。

台風15号に伴う大雨で、シネンシヨの圃場が水につかるなどして生育不良となり、当初の出荷見込み1万7千本のうち約6割が被害を受けた。30年ほど前から栽培に取り組んでいるシネンシヨは、農家仲間とともに「ほんやまじねんじょ」として生産拡大中の地域特産品の一つで、茶と同様に水はけの良い圃場環境を適地とする特徴を生かし、高品質生産に取り組んでいる。

「茶栽培と農繁期が重ならないため、収入確保だけでなく規模拡大を進めている茶栽培の雇用を確保する面でも経営に不可欠な作物」と藤田さん。「今回の豪雨で大きな減収となったが、収入保険のつなぎ融資のおかげでなんとか資金繰りのめどが立った。本当に助かった」と強調する。

経営を見える化 規模拡大

藤田さんは藤田製茶の4代目として13年前に就農。特に大学で工学部を専攻していた経験を生かし、青色申告や表計算ソフトなどを活用して経営を見える化するとともに、雇用の確保と機械化により規模拡大を進めている。現在、両親と従業員5人、パート4人で安定経営に努めている。

「農業は自分のやり方次第で新たな可能性を追求できるのも面白い職業」と藤田さん。台風被害の経験から今年産はシネンシヨの定植時期を早めるなど災害への備えを強化し、高品質・安定生産につなげていく考えだ。